



Handwritten Japanese calligraphy on aged paper. The main text consists of three large characters: 蔵 (Zō), 文 (Bun), and 巻 (Maki), which together mean 'Zō Bun Maki' (a type of book). There are also smaller characters and a circular seal at the bottom left, and a large dark ink blot on the right side.



尖尖

身屬邪

僕女

結目



侍

小條文代記卷中六之目錄

- 一 上秋輝虎哉田信玄小田原勸事
- 二 嫁男と厚の女許乃事
- 三 百姓衆のけとる乃事
- 四 小條氏康和奇乃事
- 五 欲心乃とが海内乃事

小條文代記卷之六

一 上杉輝虎氏田信玄小田原入働事

中一、今侍所四人あり合じり一國東ありの軍
物終とありひく小田原に入る。中より一人云々から我生
國を越後あり。上杉輝虎ハ之らと一國と持て國外
乃之より小田原氏康と云々ありの陣あり討つ國と
阿まひとて一年。小田原近所までとて一國と持つる事
之を名とて之を猛強の大物なりといふ又一人は甲
列乃侍人あり。氏田信玄八甲扱まらるがあまを討つ
氏康と云々あり。是と一年小田原へと入。是の時
もめて、城より出く。彼と云々あり。相模三城
して合戦し。信玄討ちらむの敵と討たる事

氏康氏勇より記あり。種虎と伝ふと小田原へ
出ぬ氏康氏勇と未代は抄とす。あまのま
小田原より入る。むす下府の記とす。あまのま
りして。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
府市へあまのまの記とす。あまのまの記とす。
町氏の記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
也。これよりあまのまの記とす。あまのまの記とす。
御り上野下野。氏康下総。前記よりあまのまの記とす。
康より下野の記とす。あまのまの記とす。種虎伝ふとす。
し。小田原より入る。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
せど。あまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
あまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。

亂れ。古今の例。小田原へ働くとす。あまのまの記とす。
り。あまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
傳の記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
甲州の記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
おまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
それよりあまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
古人よりあまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
と記。他記よりあまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
く。甲州の記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
甲州の記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
旗下小田原の記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。
約三郎在城と。小田原の記とす。あまのまの記とす。あまのまの記とす。

新三牧場をそのほろし田舎ねはに城をぬきし手
柄よしとていふものなるに田中より長久保の泉頭平倉志行
源の一字城に氏康ありぬ又海浦里に居りる。志行
志下志師源。志師源の浦。志師源は七ヶ所乃浦
里とていふなり。氏康あり。信玄勝頼時代は
よりか。氏康とていふなり。一生流るるに汁也。それより
より小のりん。氏康あり。甲別より。信玄
父信虎とていふなり。甲別より。我軍は海河
今川氏美乃ふあり。氏美若守。湊田の源氏康
も。切てらるる。他人より。信玄母信玄
が。氏美の我場あり。氏美を。信玄母信玄
我軍とていふなり。大石小石子とていふなり。我軍は海河

新三牧場をそのほろし田舎ねはに城をぬきし手
柄よしとていふものなるに田中より長久保の泉頭平倉志行
源の一字城に氏康ありぬ又海浦里に居りる。志行
志下志師源。志師源の浦。志師源は七ヶ所乃浦
里とていふなり。氏康あり。信玄勝頼時代は
よりか。氏康とていふなり。一生流るるに汁也。それより
より小のりん。氏康あり。甲別より。信玄
父信虎とていふなり。甲別より。我軍は海河
今川氏美乃ふあり。氏美若守。湊田の源氏康
も。切てらるる。他人より。信玄母信玄
が。氏美の我場あり。氏美を。信玄母信玄
我軍とていふなり。大石小石子とていふなり。我軍は海河

新三牧場

新三牧場

於あり。武列評定の存ありては。い。い。と。必。盡。し。復。
地。よ。じ。う。う。め。終。小。相。別。以下。出。仕。乃。今。一。後。一。ま。ら。ひ
こ。か。き。と。地。を。終。一。別。が。地。の。あり。の。為。守。居。の。侍。も。
悪。考。た。と。殺。い。討。七。一。サ。事。小。終。武。列。は。中。と。安。河
次。より。仰。り。給。ひ。お。左。馬。尉。盛。惣。武。列。と。誅。して。を。
至。誠。と。慕。し。終。小。終。也。そ。と。一。國。敵。を。り。と。い。ま。
先。其。使。と。り。て。左。右。と。中。の。中。の。い。ま。ま。事。の。整。
徳。ホ。と。さ。い。は。ゆ。が。れ。が。謀。と。成。り。ま。し。一。事。を。
中。の。い。ま。む。じ。ら。せ。め。終。小。の。系。争。也。向。後。の。の。の。
下。の。後。と。い。ま。か。ら。ん。と。乱。世。の。り。一。世。の。そ。と。ま。
と。ま。の。い。ま。と。い。ま。武。列。を。終。し。て。一。下。と。い。ま。一。
終。小。の。母。あり。の。就。終。と。い。ま。也。眼。前。と。い。ま。一。兄。弟。
と。終。小。の。母。あり。の。就。終。と。い。ま。也。眼。前。と。い。ま。一。兄。弟。

と。殺。害。せ。し。め。ん。事。豈。人。の。そ。と。一。下。と。い。ま。一。
時。い。ま。と。い。ま。一。終。小。の。母。あり。の。就。終。と。い。ま。也。眼。前。と。い。ま。一。兄。弟。
い。ま。と。い。ま。一。終。小。の。母。あり。の。就。終。と。い。ま。也。眼。前。と。い。ま。一。兄。弟。
人。の。か。事。小。終。と。い。ま。一。兄。弟。と。い。ま。一。兄。弟。
大。敵。の。そ。と。一。下。と。い。ま。一。兄。弟。と。い。ま。一。兄。弟。
い。ま。と。い。ま。一。終。小。の。母。あり。の。就。終。と。い。ま。也。眼。前。と。い。ま。一。兄。弟。
一。下。と。い。ま。一。兄。弟。と。い。ま。一。兄。弟。
の。あ。ま。り。の。盛。惣。が。祖。洞。の。向。武。列。の。誅。謝。と。い。ま。一。兄。弟。
ま。の。う。か。よ。め。ん。や。の。い。ま。と。い。ま。一。兄。弟。と。い。ま。一。兄。弟。
せ。ま。と。い。ま。一。兄。弟。と。い。ま。一。兄。弟。
な。れ。信。玄。一。下。と。い。ま。一。兄。弟。と。い。ま。一。兄。弟。

山乃心人たは害せられ給ひぬ申別傳敵討乃廣義分
 世の噂とある。信長公甲冑打入給ひて後申別傳を
 へ呉るなり一傳先み子孫書出。以技持るま一と云れ
 五つれ多連し。賊とあり。山麓と分ける。我をくも
 意別は被殺と記し。御一申。後支田の傳先。津を一
 挺のりよとさど。矢と一筋これとて敵のしよと云んば
 一と云はる。まよとんそ。近の腫病者。後代のあじ
 めとて。百余人繩とて。皆首を切まらされ。俗
 説。徳と徳の仇とて。正と云事。あり。今そ。徳
 事ある。人見と云。我に。後と。家と。山麓
 を仇と云。ゆ。多と。仇なり。て。多。心。り。か。つ。を
 仇と云。勝員と。変と。隠一也。想又。傳力。仇。ハ。長。傳。之



武田の甲冑の図

三城よりお暑とさぐめ信玄陣場へ討つ。夫とて
さう焼立軍中より難波とてのどろけ。信玄を
さ敗軍と。一陣破す城者全うと。取さし甲
着へ下けり。信玄八幡大弁と書すよりとて
是と拾ひ氏康年うまれ。款のとれは旗とて知
まるとして突ひ小田原へ陣をり。と書す落書り

名と入る。あけこびりしとて八幡のとも打を
て。け田信玄とぞうまふ。信玄高志友あ夜乃
合戦より二夜甲着まで迎ひ是ともありと信玄
又出陣とて。人殺とてを。強烈とてはしりて
七の城より加勢とてお侍と。信玄上野下野。長
所。堀り居候とて。あ。公方上候乃事候。一味し

信玄甲着とて反十月二日小打立。一味乃加勢大軍を
つんぞう。乃筋の城よりとて。とて。小田原へ
とて。沈とあて氏康案外。と。合戦より。小
田原の人殺。若子河原へ打。大河とて。とて。時と
弦。と。此者。酒匂乃宿と。教。火。し。即。討。つ。を
と。討。つ。と。小田原より。切。て。出。進。り。敵。敗。軍。と。成
康氏。政。園。解。と。わけ。り。し。と。わ。り。あ。ま。し。か。討。つ。と
下。知。し。と。わ。り。と。山。角。上。野。と。て。時。と。て。時。と。て。時。と。て
守。福。崎。伊。賀。守。小。田。原。と。て。酒。匂。と。て。一。城。上。候
子。息。常。清。守。の。事。健。より。と。せ。来。し。同。隆。貞。と。同
安房守大乃寺。後河。と。て。と。わ。けて。と。せ。り。と。て。

十月六日乃事あり相甲乃さる。三増引下。信玄
人教とゆしとこぬ。味方是とさる。小條助五郎因
利太郎勝はあはく。前登よりこ遊討あよ。さる
とく。乃多勢切てか。我味方。乃遊討中。少。維
兵二千人討まぬ。信玄小條家とら。矢とめて。勝
利とゆら。り。一代は是。乃さる。種虎信玄因東
遊長乃。流傳と一味し。小田原へち。さる。こ。久我
一。乃のら。さ。ま。此。板よ。ひ。さ。り。あ。あ。の。り。矢と
項羽が獨けなげと。あ。れ。む。下。走。吏乃。勇。士。と。さ。る。り
小。さ。る。と。さ。る。氏。康。へ。り。あ。れ。し。小。條。助。五。郎。と。バ
四。別。人。院。人。は。あ。れ。と。り。片。肢。と。さ。る。さ。る。さ。る。り
の。助。五。郎。乃。天。壽。乃。兄。牙。乃。永。祿。七。甲。子。正。月。八。日。さ。る

老人我。先。治。小。さ。る。天。と。さ。る。大。人。なり。氏。德。氏
康。より。こ。の。信。玄。國。と。相。向。く。切。て。あ。れ。信。玄。は。こ。い
へ。と。氏。康。國。と。一。村。信。玄。あ。る。院。と。さ。る。さ。る。さ。る。り
伝。玄。あ。り。列。へ。あ。る。さ。る。の。氏。康。と。さ。る。の。約。達
心。さ。る。一。味。と。さ。る。が。あ。れ。也。勝。頼。八。天。正。五。年。氏。政。旗。下
さ。る。さ。る。より。甲。州。傳。ら。矢。と。さ。る。と。信。玄。は。こ。い
り。と。さ。る。と。さ。る。と。さ。る。の。謀。さ。る。と。さ。る。の
さ。小。田。原。所。と。放。火。と。さ。る。の。軍。平。八。天。正。十。八。年
まで。天。二。年。の。事。也。今。は。正。十。歳。の。事。相
撲。小。田。原。の。男。女。と。さ。る。と。さ。る。と。さ。る。と。さ。る。の
國。治。は。氏。の。口。と。さ。る。と。さ。る。川。と。さ。る。と。さ。る。と。さ。る。の
た。り。と。さ。る。と。さ。る。と。さ。る。と。さ。る。と。さ。る。と。さ。る。と。さ。る。の

即冠者とあまたつ連高しく大ねはぬをしつゝ一丸
奉養より不登へ改めざるはさかの後承あり。輝虎伝云
教固乃正とぬ教乃終と引ぐ。大ね夫はさかひく。

いづりく小田原へさかひくといた。あつた時あつた
那那乃曼近敷よとくはささふ人もあつた。あつた
にさつた。あつた。あつた。あつた。

大ねねをよとさつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

その約よとくはささふ人もあつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

康家とそれ西と治つた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

敵我の者としてさつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

小人ハ一旦乃科とつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

りてこれとつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

たりとつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

人しちる。関八州の北より南に流る。此は遠國の關八
州に敵をく。あり教向をれば又。東より西に流る。
さ。教向の公我をく。又。北の流る。二心なく。
心かの飛をせせり。氏康乃源忠と感し。方今
とまげうら。一節小勲功とまげまを。是より付て心
せり。治養乃此の。相対石橋山乃合我。
いし。け。別く。流る。高山次郎。急河。紙
太師。江。太師。有。乃。者。氏。を
ら。三。海。大。義。的。と。討。わ。る。が。も。此。は。相。対
流。入。給。ふ。時。右。の。人。と。り。り。道。心。乃。業。事。あ。り。く
く。流。入。給。ふ。時。右。の。人。と。り。り。道。心。乃。業。事。あ。り。く
と。ま。げ。う。ら。一。節。小。勲。功。と。ま。げ。ま。を。是。よ。り。付。て。心

流る。此は遠國の關八
州に敵をく。あり教向をれば又。東より西に流る。
さ。教向の公我をく。又。北の流る。二心なく。
心かの飛をせせり。氏康乃源忠と感し。方今
とまげうら。一節小勲功とまげまを。是より付て心
せり。治養乃此の。相対石橋山乃合我。
いし。け。別く。流る。高山次郎。急河。紙
太師。江。太師。有。乃。者。氏。を
ら。三。海。大。義。的。と。討。わ。る。が。も。此。は。相。対
流。入。給。ふ。時。右。の。人。と。り。り。道。心。乃。業。事。あ。り。く
く。流。入。給。ふ。時。右。の。人。と。り。り。道。心。乃。業。事。あ。り。く
と。ま。げ。う。ら。一。節。小。勲。功。と。ま。げ。ま。を。是。よ。り。付。て。心

王城中の酒宴。後下丸の冠乃と切形をえ
らるる。後王の命。小久らまてり。古語。地うと
ら。大木生ぜども水浅れば大魚あそむとと
氏康八と大とと。持る。幕下小大名多し。若大
ゆ。これとむ。と。多國と守。漢を。院
世。やへ。ら。夫の威光と。や。と。小お。これと。氏
と。利。口。これ。小國の。武。乃。の。よ。と。と。一
と。あ。と。と。それ。水。深。家。乃。根。源。と。あ。と。早。雲。の。系
初。乃。云。乃。は。は。他。界。の。後。毎。一。人。後。河。へ。下。り。今
川。氏。親。と。あ。の。と。後。武。略。と。し。て。伊。豆。と。切。て。り。
初。又。相。換。と。す。國。も。よ。入。長。先。氏。總。相。換。と。あ。と。あ。
氏。康。下。總。乃。派。と。た。り。と。せ。あ。あ。し。子。息。氏。康

時代。八。十。國。と。治。め。氏。政。氏。並。ま。で。又。代。嫡。と。家。督。と。は
も。昔。余。年。國。八。列。と。部。遣。よ。治。め。武。軍。此。来。と。し。
て。大。城。よ。ら。て。天下。と。引。傳。百。余。年。目。指。さ。り。滅
亡。と。後。ひ。ぬ。ら。夫。と。あ。と。と。始。終。と。治。め。る。氏。家。
幕。代。末。也。後。代。乃。幕。遣。小。と。と。り。佛。非。へ。り。て
も。孫。か。り。と。は。水。深。家。の。ら。夫。と。り。し。と。廣。云。と
三。幕。男。と。と。め。女。の。川。と。り。事。
安。し。は。ひ。し。水。深。氏。並。時代。小。田。原。よ。と。て。毎月。二
か。は。け。も。中。外。京。國。八。列。の。技。と。沙。汰。せ。り。ゆ。あ。合。人。
伊。豆。使。中。守。大。和。乃。少。輔。小。笠。原。佐。藤。守。松。田。元。法
守。同。肥。後。も。山。角。上。お。し。と。同。紀。伊。も。海。防。備。者。守。
安。友。と。前。も。後。も。是。江。吉。入。道。也。と。れ。ば。或。日。も。乃。

守人としての責



戸と聲がり入の者。盗人よりふるりたるをばえりま
 いづき理物つさまんぐ。盗人の男を少てさりて
 がもたどるうも。氣ましとあつても。耳目あじしくま
 て。玄象のさむらひとあつて。双方はとくくつたれば。
 育の氣も理物と付くくたがりめと神とをさぐ
 是れの出さるる。一帯がを前。老人よりくわいり。さ
 いばんとちりける。沙汰丸の出入極く乃子細まで。我
 流知くささうふ。かめよ乃がざりし。がんまよとよば
 ぬ。さうさ。別妙の金と云。つ。さ。沙汰丸。耳目と
 おどろり。感じ。つ。り。日本。國。六。さ。て。よ。ま。あ。美。國。は
 との。さ。だ。た。あ。ま。あ。る。沙。汰。丸。の。た。び。を。ま。り。あ。は。れ。成
 敗。より。さ。ま。ま。さ。る。い。と。も。ひ。け。る。よ。び。男。女。の。沙



百々々々々々

されがー定井の百姓として作が味方毎軒毎の如く
 と動くなほあるぬとんけりさく作は一挺をさす
 ー今來の新討の味方の中人くらやうにそれごとく
 ありふり敵とそれごとくぬぐひはたぐふそれごとく
 のふかき一挺は進出せぬ敵とつふせ首おめてゆと
 ー氏改ゆるる百姓としてきかゆけりさく定井持の
 有あつとぬかやうびさく後水風杖といふはさる作
 義重常陸の國へ陣一し岩井の口へ敵新討の別い
 と井の百姓味方の味方とせしむる前登よしとる敵
 とぬぐひはたぐふとも力も肩とつて終ふ敵と此
 さあせ首討れ事聞八列並ぬ剛民二人あつた
 ころした。元代末あつた也ぬる百餘討捕首ら肉とさす

一、義乃高名と名刺はあると者也。彼乃勤貴よ
 姓と名し侍も一と名刺と用ひ岩井と名のり。友ハ共
 庫助（この助）より下たる。今且より岩井兵庫助と名刺
 付し。もと岩井乃口と名刺し。永代子、孫、他乃
 さまじいげもさくうむい。おとこりとはあまそ。いふ忠切と
 ちげまうとよよのて。バがさひて貴とあてと。あるるる
 者也と云。拙又ある一人の百姓とお討の。お本持と助
 と。友人の義は作し。皆人ゆはし。多るふお本持と助ハ
 小原家清代（この代）の武士。中身年々との。孫ちり。若中と
 云。かぐら。い。ま。さ。の。さ。ま。に。血とけけ。と。首。た。の。り。と
 是。ら。め。り。百姓とお討とら。は。お。く。は。さ。首。百姓と
 ち。せ。せん。然。は。侍の。而。目。さ。る。と。よ。と。う。の。か。い



氏名よりびるいん

と百姓とお付し。由前入する事。侍真加。青き。侍
率のあざかり。くろ。若も。い。そ。之。心。所。か。り。ん。
武勇と。う。か。ま。ん。草。ぶ。衆。指。し。助。内。庄。と
あ。と。く。う。ど。り。あ。わ。く。ん。し。同。引。鼻。引。膚
と。う。く。と。あ。よ。百姓。せ。く。り。る。は。ぞ。れ。が。し。と。岩。井
乃。百姓。敵。乃。書。付。と。多。て。い。け。行。能。一。挺。用。と。結
味。方。れ。肉。へ。り。入。く。前。け。仕。ひ。あ。よ。是。ち。る。侍。と。敵
と。た。り。あ。く。付。つ。う。れ。つ。ま。よ。殺。す。亦。手。負。く。ら。海。け
い。ま。ふ。か。し。さ。ら。よ。それ。が。い。よ。一。獲。よ。ゆ。ら。敵。と。つ。こ
あ。せ。あ。よ。是。ち。る。さ。あ。ひ。首。と。な。て。は。ぞ。れ。が。お。付。と
乃。く。ふ。し。り。り。ひ。と。P。氏。改。定。る。軍。中。と。い。は
百姓。く。れ。と。死。乃。あ。る。ま。ひ。法。侍。乃。死。亦。と。法。は。後

て。神。め。ち。り。ひ。さ。の。忠。責。よ。び。者。毎。年。他。と。り。と。り。と
乃。田。島。と。永。代。他。れ。い。つ。し。も。と。岩。井。乃。心。の。肝。穿
は。と。者。也。然。し。百姓。と。お。付。は。る。小。卒。指。し。助。び。度。敵。の
取。付。よ。前。陣。よ。ぬ。う。ん。で。強。敵。よ。出。あ。ひ。雄。雄。と。あ。く
そ。ひ。極。威。と。あ。く。ひ。敵。よ。殺。す。亦。乃。手。負。せ。さ。し。と。り。と
ひ。勝負。と。交。し。か。つ。も。あ。よ。百姓。一。人。死。ま。く。助。死。と
し。敵。と。討。た。る。も。磨。利。支。天。乃。事。現。指。し。助。が。武。勇
乃。い。と。と。あ。よ。あ。く。ん。是。神。佛。施。乃。真。意。よ。う。あ。よ
か。ゆ。ち。り。度。百姓。け。あ。き。者。の。も。く。と。感。せ。め。終。す。よ
う。め。は。何。く。討。捕。首。乃。肉。よ。と。つ。て。二。妻。乃。さ。る。名
と。美。利。よ。付。し。向。事。小。卒。指。し。助。軍。中。此。面。自
と。な。ま。く。と。者。也。と。い。お。お。付。る。侍。乃。討。た。乃。首。取

武勇と

大

場乃厚為の勤功小意じ。一四一村金銀と結納し。勤
貴せし向く事。あきましくあるべし。

四 小條氏康和奇の事

中一、昔小條氏康の近習は、結納し、山侍と守し
り。老士かたりたる。氏康は父良乃連人。ら夫とて
國八引、威とつらひ。東西南北、敵もそ。あつひ。書
書いらく、評定、せんし。あくす。勝とえ。結納。さ。ま。た
と。此の乃。も。内小と和。このま。め。結ひ。り。或
時、和漢の女人と集め。或時、八奇のまあり。氏康百首
乃、自派と。京都へ。上。せ。ま。道遠院。殿。合。兵。と。な。り。其
結ひ。ぬ。或。つ。つ。も。構。よ。の。か。り。と。結ひ。り。耐。よ
を。ま。え。抗。ま。く。鳴。つ。と。出。前。よ。作。る。人。と。あ。ら。し

凡そ、凡そ、若、角、子、人、事。梅、憲、朝、と、云、者、り、多、く、む、じ、り、
於、朝、云、信、州、法、師、の、ん、ら、う、聖、の、由、持、ゆ、振、鳴、せ、し、と、
て、起、ま、り、ぬ。人、は、是、と、さ、り、ん、と、そ、夫、を、成、と、あ、く、と、
け、し、う、ま、い、ふ、げ、さ、ぬ。於、朝、云、由、持、と、し、秋、の、聖、の、振、と、
こ、も、い、く、交、り、ま、ゆ、振、鳴、り、ぬ。不、意、多、り。誰、く、ま、り、
凡、そ、人、も、信、下、さ、れ、ぬ。上、菟、祐、理、形、り、て、滅、し、
乃、由、持、と、い、つ。梅、原、源、太、景、季、が、奇、よ、る。鳴、神、と、め
て、教、え、れ、ひ、ひ、ぬ。是、小、と、奇、あ、ら、る。一、つ、り、
と、と、り、た、れ、ぬ。む、じ、人、ま、り、し。小、武、義、乃、圓、乃、あ、ら、
を、甲、乙、之、師、季、隆、乃、け、ぬ。あ、ら、る。う、ま、り、
及、し、し、が、な、が、せ。

新なる事ばあらくとこそ鳴へるよあまに



天正九年八月廿一日

て寛仁大方なり。予は福作乃徳行よ或は礼義誠
厚しと對面し。或はあまのけりて之を慕ひとけり。食とるの
すも仁よ多かる。累年とある。氏康いづく我教
方の合戦よ勝利とする事。武方のいづくと下よ他
どもあまのけりか。天運全ありて。神の佛地今擁
護よの所が也。佛神と伝教し。法寺法社と建
立せり。己父氏徳。天文九年。鷗野山八幡宮。道臣。
氏康。同土。去富。年。即月。十二日。中井。乃。演。乃。大。高
君。と。立。同。親。小。ま。ま。せ。千。遍。施。羅。庄。と。七。日。と。こ。か。り。に
何。事。も。な。く。一。切。皆。捨。棄。先。例。よ。お。く。り。も。布。教。不
お。く。り。乃。同。録。あ。け。く。志。す。と。り。の。り。も。大。高。の。井。天。正
年。中。と。て。い。ふ。今。ハ。多。し。て。あ。り。氏。康。く。も。多。し。と。い。ふ。

る信長も信長も京都へせり。之好と追討しる方
義昭も京都へ移し。天下小義兵と上國西とか
ひつとつ久我まゝと振舞ふ。これとあり。る方
と押しめり。る方よ。河内國東山條氏政軍兵
と率し。上國住り。信長と追討し。る方よ。この有義昭
より使者と下り。氏政取て。は命と仰せ。る方
事。お小とて。而月より。辞し。小却て。る方
あり。信長と。追討は。る方。有言と。す。氏政を
これ。信長も。高野山と。あり。首と。切し。事。
と。信長も。多し。り。昔。佛。敵。人。と。あり。天皇
て。提。摩。多。の。信。と。精。血。と。せ。と。我。物。の。守。屋
大臣。信。長。太子。佛法。と。弘。め。給。ふ。と。海。へ。け。信。成。を

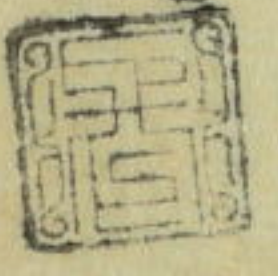
南京七寺。梅又。是。城。寺。と。放。火。し。松。長。彈。心。を。素。良
乃。大。佛。殿。と。灰。燼。と。も。悪。逆。を。乃。よ。り。て。天。罰。の
を。ぞ。く。び。お。乃。人。を。世。久。し。の。り。と。皆。あ。ひ
果。り。然。ま。は。叔。山。の。人。皇。天。十六。桓。成。天。皇。延。曆
年中。傳。教。大師。と。心。と。あり。せ。出。建。立。さ。り。り
の。王。城。乃。法。守。り。と。改。よ。八。百。余。年。す。よ。よ
と。び。山。と。あり。と。と。云。事。なり。元。宣。よ。三。千。九。百。餘
と。あり。我。が。子。ら。一。家。の。教。法。と。守。て。我。命。と。と。と
あり。は。小。あ。よ。信。長。元。龜。二。年。辛。未。九。月。十。二。日。
比。叡。山。堂。社。佛。圖。あり。り。焼。亡。し。三。千。乃。の。後
人。も。少。く。と。有。と。の。又。逆。の。悪。人。の。あ。り。多。し。り
邪。心。の。改。乃。真。威。と。有。と。天。道。乃。少。く。と。信。人。討

とびそらよむく。長尾宗勝源勝頼と一味し。高
宗虎とわらへば。改よ越後甲列敵するゆへ。氏政上
河延川と勝頼氏改し。父子は契縁よりし。大敵心肉よ
わき。骨肉も敵とあむ。世のとりり定ごとく。然よ
如原とあむ。くひし。勝頼ハ信長云よ。わらへば。信
長ハ家人の。明智日向と。討む。日向守ハ信常乃
羽柴菟首と。小津せられ。信長と返治せんと。のぞ
くとけし。如原家ハ秀吉の。あよ。わらへば。是皆
心ひの外よ。いささ。滅亡し。信ひぬと。いさ
ころり。されば。老人。安て。それ。去。宗乃。信よ。いれ。令
下。あ。い。さ。い。は。れ。と。言。と。世。生。睡。く。く。一。人。の
海よ。う。れ。あ。つ。と。出。法。乃。舟。橋。と。ころり。も。世。あ。と。ふ

し。き。と。皆。人。毎。乃。口。と。い。さ。い。よ。あ。る。り。あ。れ。た。と。い。い
ま。あ。い。人。り。あ。る。り。付。て。と。う。も。え。ち。死。よ。付。く。と
う。も。へ。一。生。の。は。れ。た。ゆ。え。と。い。つ。と。い。ひ。是。貪。味。癡。者。の
ニ。毒。れ。病。と。り。さ。が。ゆ。へ。の。出。離。生。死。と。あ。れ。ご。と。
は。病。ハ。着。海。南。鶴。ガ。療。治。ふ。と。う。か。い。ど。經。よ。あ。よ。く
た。い。ん。貪。欲。の。本。と。信。と。り。一。切。乃。煎。茶。乃。原。ハ
貪。欲。より。あ。り。却。て。か。と。害。も。摩。訶。止。經。ハ
あ。り。く。と。い。て。往。行。誰。ガ。是。地。と。あ。り。ん。あ。り。ゆ。り
而。乃。賊。室。つ。ご。う。他。の。た。め。よ。と。と。く。釈。迦。ハ。十
善。乃。位。よ。そ。あ。り。り。宗。花。ハ。か。ころり。給。あ。べ。き。力。か
ま。た。生。死。を。常。れ。た。ら。あ。ま。事。と。歎。も。王。位。は
と。て。十九。の。出。家。し。誰。ひ。と。り。だ。ん。ご。く。せん。よ

入十二年の夏、羅行若行の功、後リ、十二月八日、乃、曉
明、皇親、たる、時、法、実、相、の、理、と、さ、り、り、前、皇、の、若、と、
あ、ま、ま、世、ま、り、ら、る、乃、仏、と、成、て、之、勇、虎、生、れ、導、所
と、り、り、後、ひ、ぬ、王、と、成、て、衆、衆、と、扱、め、天、下、の、民、お、と
願、せ、樂、ひ、よ、あ、る、と、唯、ま、ま、が、り、此、も、也、可、法、ん
乃、あ、と、あ、り、を、別、よ、は、る、今、人、衆、よ、ま、り、者、ハ
室、の、山、よ、入、ら、る、が、ど、と、し、り、り、と、て、之、途、の
あ、ま、ま、事、か、れ、如、才、乃、彼、乃、あ、ひ、と、し、り、り、
生死の大海とさる。孫のまきよとす。孫のまきよとす。

如條入代記卷才六終



平定公御印



平定公御印

